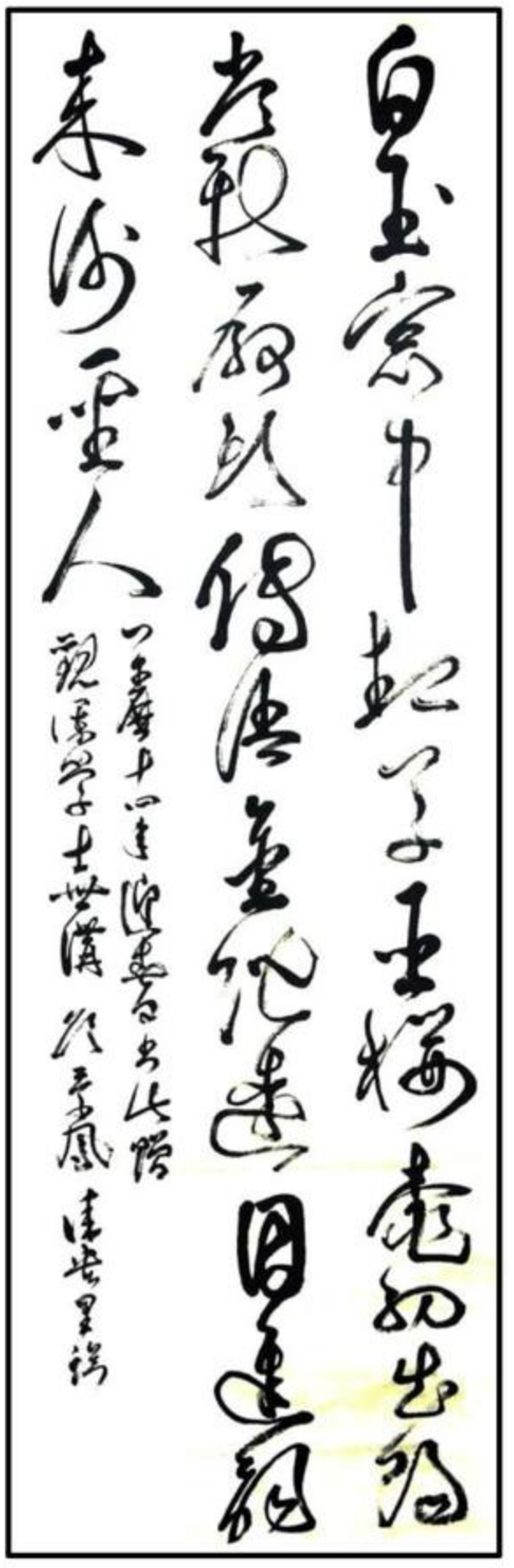
□作品紹介□

一、　東佳央里



臨書　草書　詹景鳳『七言絶句幅』　二尺×六尺

「白玉窓中起草臣、櫻桃初出陽常新。殿頭涮傳語臺階遠、因遲詞來謝聖人。　萬歴十四年迎春日、書此贈觀瀾學士世講。　詹景鳳。」

詹景鳳の春の訪れを伝える七言絶句を書きました。季節的には先取りですが、詹景鳳が感じた春の暖かさや草花が咲き始めた喜びを表現できればと思います。草書は初挑戦なので、御批評よろしくお願い致します。

二、　糸井健太



臨書　行書　文徴明『五言律詩幅』　二尺×八尺

「南樓三月盡、飛絮滿江城。野色烟中斷、斜陽雨外明。繞簷風燕々、千樹煖鶯々。歳有傷春感、兼茲白髪生。」

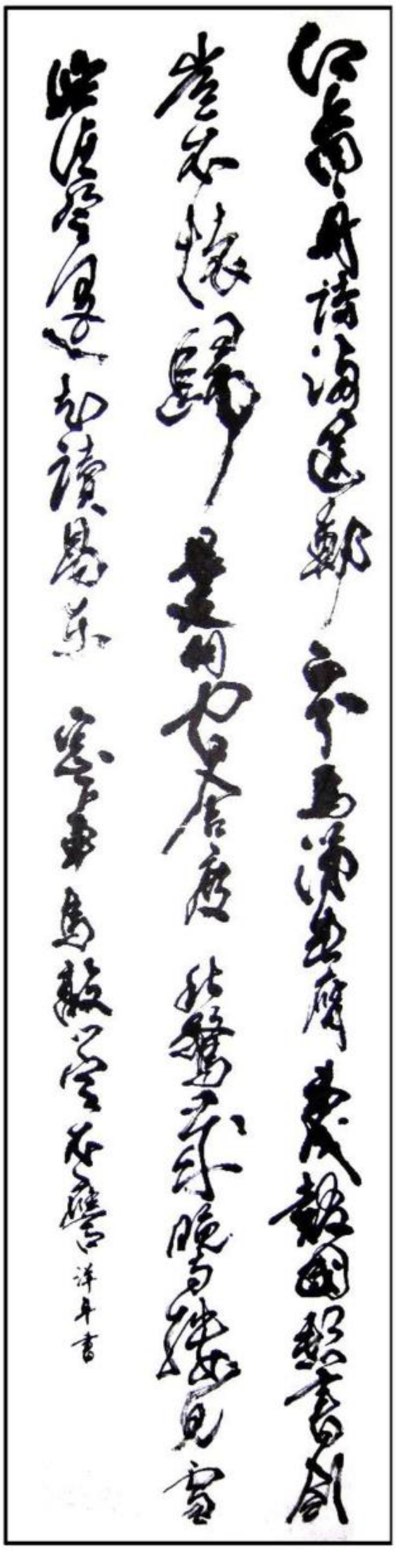
なんとなく目に留まった法帖を臨書しました。なんとなく目に留まらせたり心地をよくさせるなにものかを、表現の内に込めることができたらいいと思っています。

三、　江崎洋平

創作　草書　「九月二十日微雪懐」　二尺×八尺

「江上同舟詩滿篋　鄭西分馬涕垂膺　未成報國慙書劒　豈不懐歸畏友朋　官舎度秋驚歳晩　寺樓見雪與誰登　遙知讀易東牕下　車馬敲門定不應」

宋代の書家蘇軾の詩です。国恩に報いることができずにいる役人が、故郷へ帰ることもなく秋を過ごして年の暮れになってしまったことを嘆いている ものです。行書三行の経験はほとんど皆無でしたが、その分試行錯誤を経ながら書道の魅力を改めて実感しました。

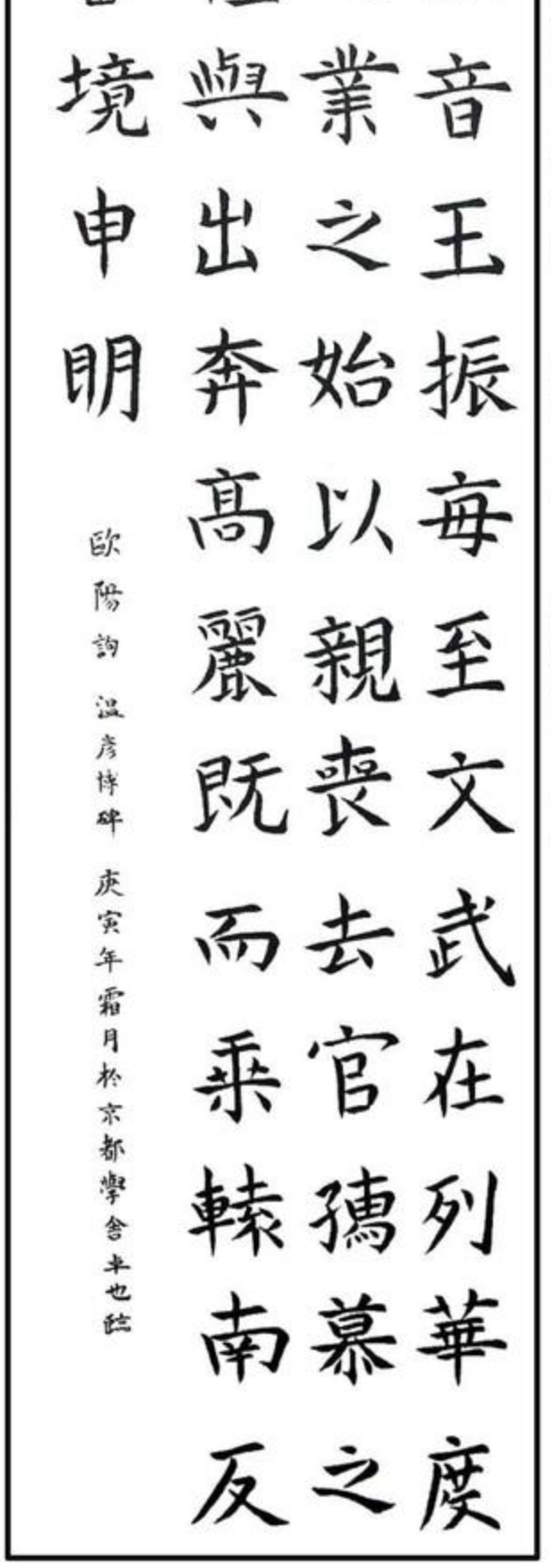


四、　岡田卓也

臨書　楷書　欧陽詢『温彦博碑』　二尺×八尺

「姿月舉韶音玉振毎至文武在列華度在乎経國大業之始以親喪去官（子へん、つくり恵）慕之感哀毀之極興出奔高麗既而乗轅南反詔公衡命蕃境申明」

初めて二尺×八尺に挑戦しました。無謀な挑戦だったかもしれません。しかし全力で書道というものにぶつかり、その過程で自分自身と向き合えたと勝手ながら思っています。まだまだ未熟な作品ですが、ご批評よろしくおねがいします。



五、　中川和也

臨書　草書　傅山『七言絶句幅』　二尺×八尺

「龍王社鼓閙村雩抛却残書也杖扶愁無角抵酬」

傅山の作品に感じる、ゆったりとしたリズムと大胆な墨の濃渇を表現しようと、最初は形臨に徹した。しかしながら結局それは、結果となり、この現代に「作品」として甦ってこないような気がした。古典を蹂躙するつもりも侮辱するつもりもない。ただ、甦らせたいと願った。



六、　尾﨑由布子

創作　隷書　「送夕暉」　二・六尺×八尺

「雁影横秋色蟬聲送夕暉」

今回制作時間が取れないなか、少しその焦りが出てしまったかもしれません。なんとか形にしようとするあまり、あまり余裕のない作品になってしまったように思います。今度は腰を落ち着けて、試行錯誤したいです。

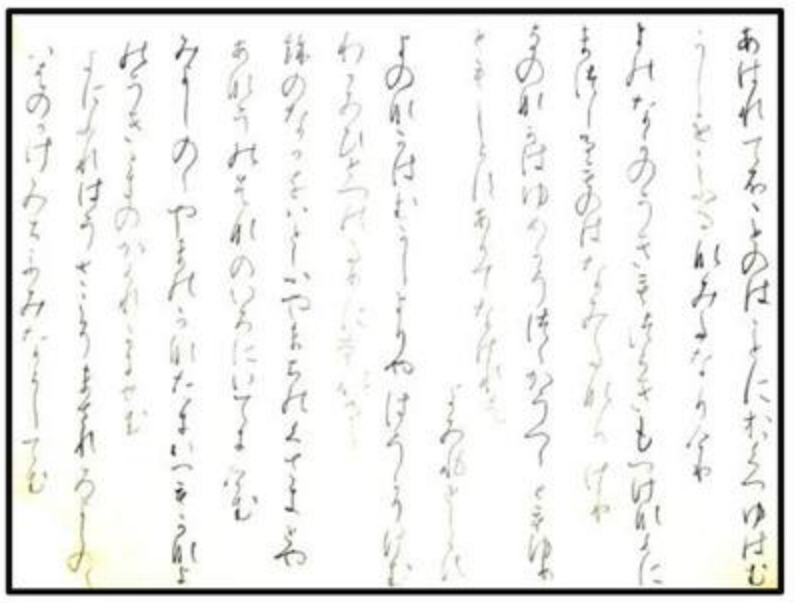


七、

池田亜由美

臨書　仮名　『高野切第三種』

「あはれてへことのはごとにおくつゆはむ・・・他」



高野切第三種のもつ速さと勢いを表現できるようにがんばりました。未熟な作品ですが、御批評お願いします。

八、

植島寛之

臨書　楷書　王義之『集王聖教序』　半切

「観自在菩薩行深般若波羅蜜多時」

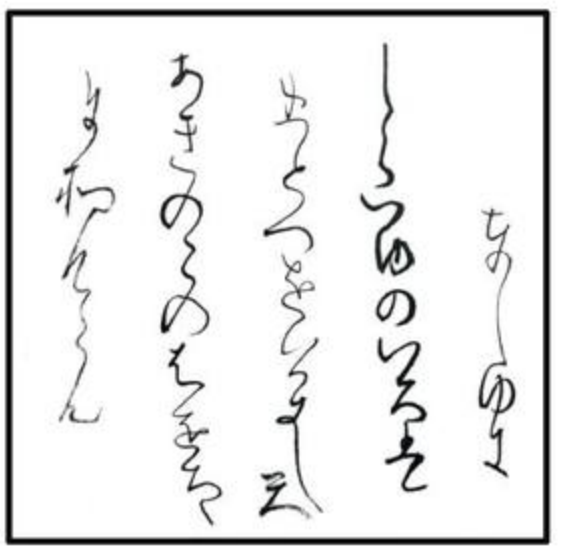


この般若心経は王義之が書いたのではなく、他の方が、王義之の書を集字したものです。文字の系統がばらばらに見えるのはそのためです。原本に忠実にしつつもバラバラな文字を作品にまとめるのは本当に大変でした。それはもう大変でした。

内村実穂

臨書　仮名　『寸松庵色紙』　二八3／8

「と(東)しゆき　しらつゆのいろは(盤)ひ(悲)とつ・・・他」



散らし書きの美しさを魅せるため文字列の傾きや空間の取り方に注意して書きました。また、線の厚みをきちんと出すと同時に細い繊細さも表せるよう努力しました。仮名のおもしろさを存分に味わうことができ、とても楽しかったです。

大西春菜

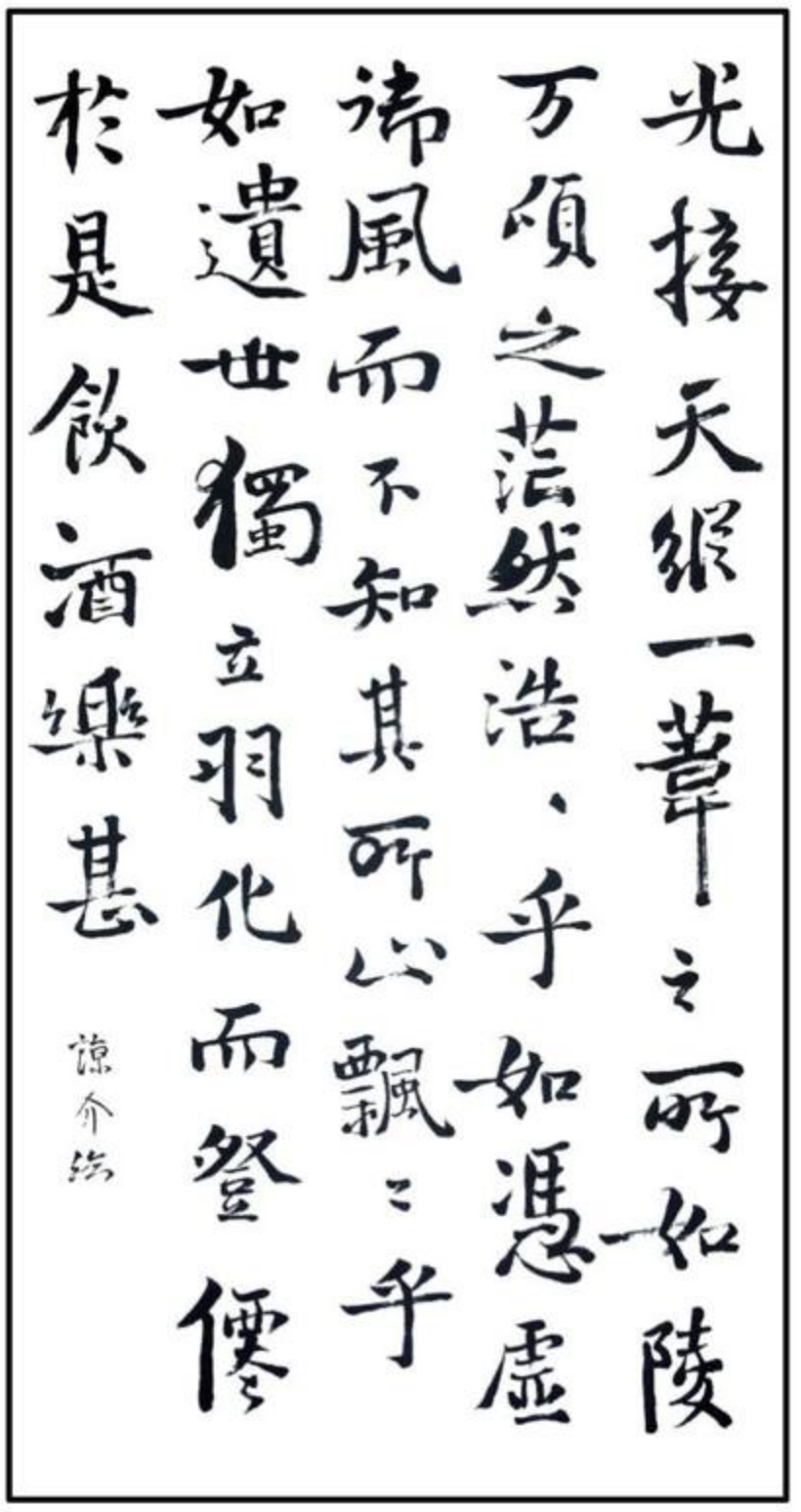
臨書　行書　王羲之『集字聖教序』　半切

「蓋聞二儀有・・・他」



これは、私が初めて臨書で細字をかいた作品です。金色の墨の濃さを一定にするのが難しかったです。一枚かき上げるのに時間がかかり、あまり練習することができなかったので未熟な点も多々あると思いますが、ご批評よろしくお願いします。

十一、大庭諒介
臨書　行書　蘇軾『赤壁賦』　全紙
「光接天。縦一葦之所如。陵万頃之茫然。浩々乎如憑虚御風。而不知其所止。飄々乎如遺世獨立。羽化而登僊。於是飲酒樂甚。」
人生で初めての全紙作品です。一字一字の字形やバランスが独特でありつつも、全体として一つの作品に仕上げていくことが難しかったです。筆の入りや収め方など、蘇軾の持つ絶妙な筆遣いを頑張って練習しました。


光接天縱一葦之所如陵
万頃之茫然浩、乎如憑虚
御風而不知其所止飄々乎
如遺世獨立羽化而登僊
於是飲酒樂甚
諒介治

十二、岡本清二
創作　隷書　「三国志『水魚之交』」　61cm×135cm
「瑯琊諸葛亮、寓居襄陽隆中、毎自比管中樂毅。・・・他」
多字の作品に挑戦できて嬉しいです。字体は曹全碑を参考にし、無い字は頑張って補いました。遂に劉備が諸葛亮孔明に会い、語り合う場面を想像しながらご覧になって頂けると光栄です。


瑯琊諸葛亮寓居
司馬徽徽徽曰
孔明龐士元
乃得見亮問
誅不可與爭
鋒荼也識時
孫亮徐侍

十三、奥山優
臨書　行書　王羲之『興福寺断碑』　半切
「之策名溢寰海功埤動植其誰由然」
興福寺断碑は、唐の興福寺の僧大雅が義之の行書を集字して七二一年に建てたものです。行書のお手本として最適だと思ったので今回初めて臨書にチャレンジしてみました。まだまだ未熟な作品ですが、ご批評のほどよろしくお願いします。


之策名溢寰海功埤
動植其誰由然
優治

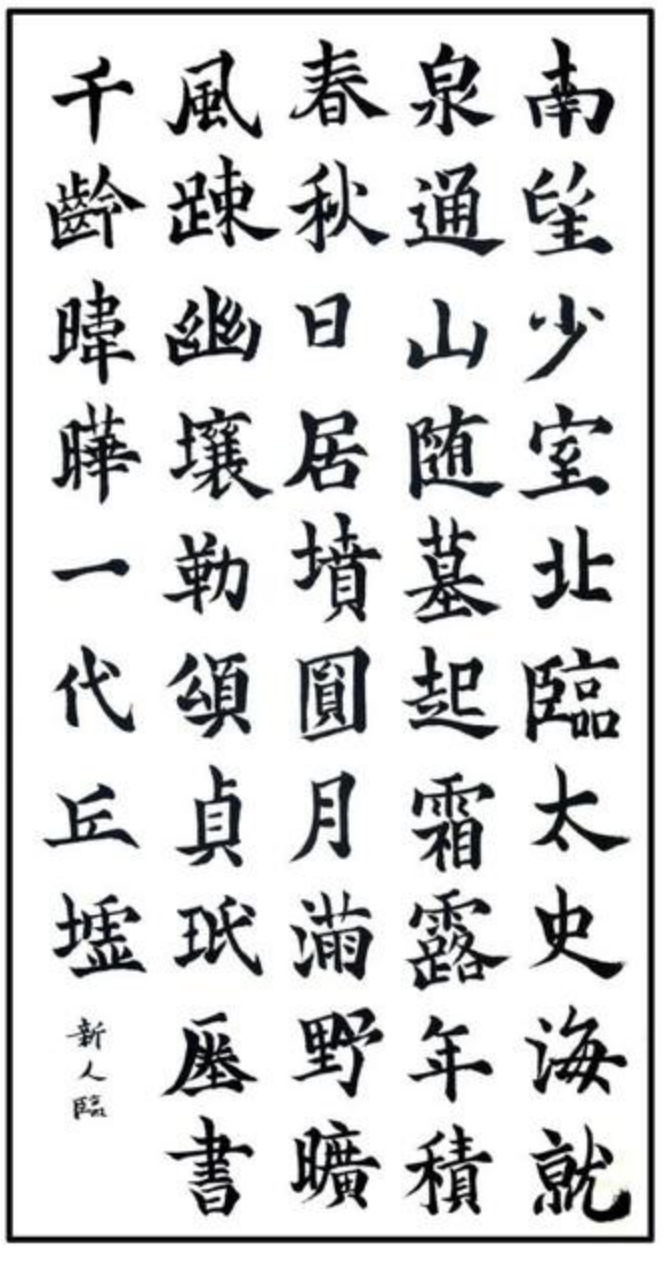
十四、小野愛実
臨書　行書　黄庭堅『松風閣』　半切
「雨鳴廊到暁懸相看不歸臥僧氈」
人生初の作品です。ダイナミックなかっこよさに惹かれて、右も左もわからぬまま挑戦しました。未熟な点が多いですが、これからも頑張りたいです。



十五、小林真由美
創作　楷書　『九成宮醴泉銘』　半切
「春風桃李花開日秋雨梧桐葉落時」
大学生になって初めての作品になります。中学以来の書道で悪戦苦闘しました。まずは楷書からと選んだ書ですが、線の力強く、それでありて優雅で美しい感じを出すのに苦労しました。これから様々な書を学び、練習を積んでいきたいと思います。



十六、鈴木新人
臨書　楷書　欧陽通『泉男生墓誌銘』　全紙
「南望少室北臨太史海就泉通山随墓起霜露年積春秋日居墳圓月滿野曠風疎幽壌勅頌貞珉塵書千齢暐曄一代丘墟」
今回、楷書・全紙に挑戦してみました。一つ一つの字を丁寧に見ていき臨書しようと励み、形をとることに意識を向けました。力強く、鋭い線が再現できていればいいと思います。突っ込み所を見つけたら、気軽にお声をおかけください。



十七、髙垣茜
創作　行書　「鶴洲夜歸」　半切
「秋月清於水　孤舟放鶴歸　不知荷葉露　風巻上人衣」
「秋の月は水よりも清らかである。わたしは独り舟に乗り、夜、鶴を放って帰途に着いた。はすの葉にはいつしか露が降り、風は盛んに衣服を吹きつける。」秋特有の愁いを表現しようと試みました。



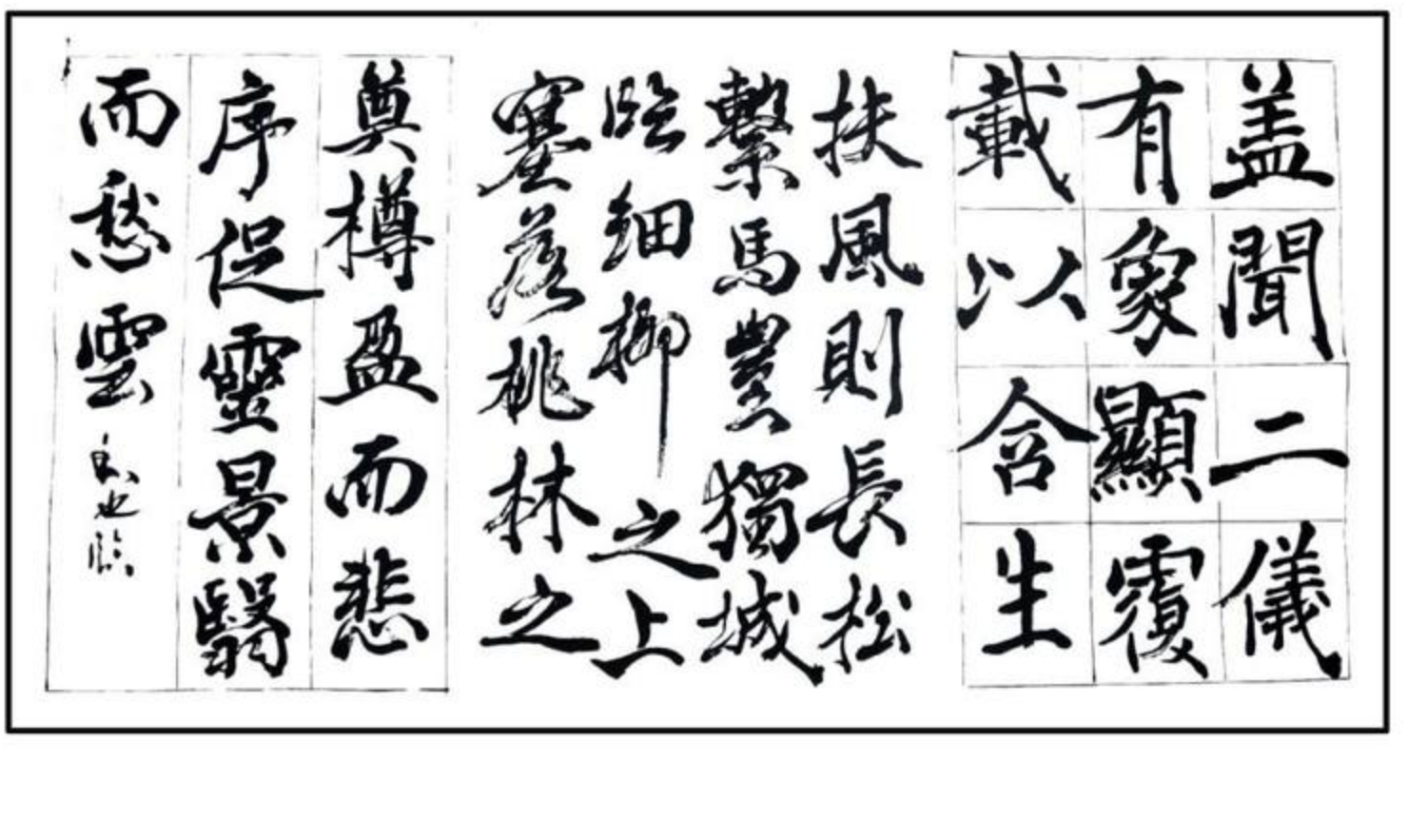
十八、時藤大典
臨書　行書　米芾『苕渓詩巻』　半切
「仕倦成流落遊頻慣転蓬熱来随意住」
半切に書くのは初めてです。一つ一つの字の形を臨書しながら、半切の作品として全体のバランス、調和を持たせるのに苦労しました。



十九、外崎陽介
臨書　行書　空海『風信帖』　全紙
「風信雲書自天翔臨　披之閲之如掲雲霧兼　恵止観妙門頂戴供養
不知攸厝已冷伏」
日本人の書いた作品を臨書してみたかったので挑戦してみました。真言宗の開祖として有名な空海の書です。前回書いた『牛櫪造像記』とは何から何まで違っていて苦労しました。ご批評よろしくお願いします。



二十、中川和也
臨書　「褚遂良―優の書―」　全紙
雁塔聖教序「蓋聞二儀有象顕覆載以含生」
枯樹賦「扶風則長松繁馬豈獨城臨細柳之上塞落桃林之」
文皇哀冊「篔簹盈而悲序促霊景翳而愁雲興」
褚遂良を学びたいと思った。その書は「優しい」と言われる。彼のものになってしまったと思う。褚遂良。ただにどのような優しさがあるのかといろいろ考えたが、結果「柔らかい」今も私の前に広がる大きな宇宙。



二二、中野周平
臨書　行書　趙孟頫『酔夢帖』　半切
「酔夢。當是諸幻未離。理自應尔。雖疇昔蒙師教誨。到此亦打不過。蓋是平生得老妻之助。整卅年。」
趙孟頫の綺麗な線質が気に入り、書いてみました。筆の入りがスッとしている所や、線が縦横によく動いている所が「趙孟頫っぽさ」だと個人的には感じています。臨書とは、「そのまんま」ではなく「っぽく」書くことであるのかな、という気がしてきた今日この頃です。



二三、仁位元信
臨書　行書　王羲之『集字聖教序』　半切
「是故空中無色無受無眼耳」
色紙を除けば初めての出品です。半切の大きさに書いてみることが初めての経験で作品としてまとめることの難しさを感じ、一方で半紙以上の作品を書く楽しさというものも感じることができたように思います。先輩方から多くのアドバイスを頂き何とか出品まで至ることができました。まだまだ稚拙な作品ですが、厳しいご批評等よろしくお願いします。



二四、西村有希子
臨書　行書　董基昌『邠風図詩巻』　半切
「玉書金簡不足異。布帛菽粟真文委」
私の作品を床の間に飾ってくれる祖母のためにと思い制作を始めた作品です。文字が大きくなりすぎないよう、白と黒のバランスに気をつけました。すっきりと、さわやかな作品を目指しましたが、難しかったです。未熟な作品ですが、ご批評をお願いします。





二五、林田悠佳
臨書　行書　王羲之『集字聖教序』　半切
「松風水月未足比其清華仙露明珠」
書道をするなら一度は王羲之を臨書したいと思い、この法帖を選びました。玄奘三蔵法師を紹介している文の一部です。三蔵法師の崇高さを作品に表わすには日々の練習と自分自身の精神的な成長が必要だと感じました。



二六、肥後真
臨書　楷書　作者未詳『隅寺心経』　半切
「摩訶般若波羅蜜多心経　観自在菩薩行深般若・・・他」
このお経は奈良の海龍王寺（別名・隅寺）で１２００年以上前に書き写された般若心経です。宗教がリアルな意味で日々の生活を生きる支えになっていた時代を思いながら、書きました。卒業を前に、今までで一番楽しい作品制作でした。



二七、松永智子
創作　調和体　「薄暮（くれがた）の曲」
「時こそ今は水枝さす・・・他」
上田敏『海潮音』（1905年刊行）収録、「シャルル・ボドレエル」の詩より創作しました。曲は「雲悲みて艶だちぬ」と続きます。哀歌が紙に溶けぬよう、流れぬように、とうとうたらり、とうたらり。夢ではうまく舞えるのですが。



二八、松村貴史
臨書　隷書　楊峴『西嶽華山廟碑』　半切
「雨我農桑。資糧品物。亦相瑤光。崇冠二州。古曰雍梁。馮于幽岐。文武克昌。天子展義。巡狩省方。玉帛」
前々から憧れていた隷書に挑戦してみました。筆の使い方が独特でとても難しいです。太いところと細いところの違いをつけ、字と字の間を意識しながら行がぶれないように書くのは、苦労しましたが、いい経験になると思っています。



二九、真殿知佳

臨書　行書　王羲之『蘭亭序』　半切

「或因寄所託放浪形骸之外雖趣舎萬殊」

初めての出品です。字が大きくなりすぎて困りました。もっと成長できるように頑張ります。



三十、水谷慈

創作　草書　「遠眺」　半切１／２

「暮雲千里亂草萊落葉微聞遠寺鐘日尽長江秋草外美人何處採芙蓉」

柔らかくて切れ味の良い線質を目指しました。十二月ですが秋季書展です。秋の詩です。ご批評のほどよろしくお願いします。

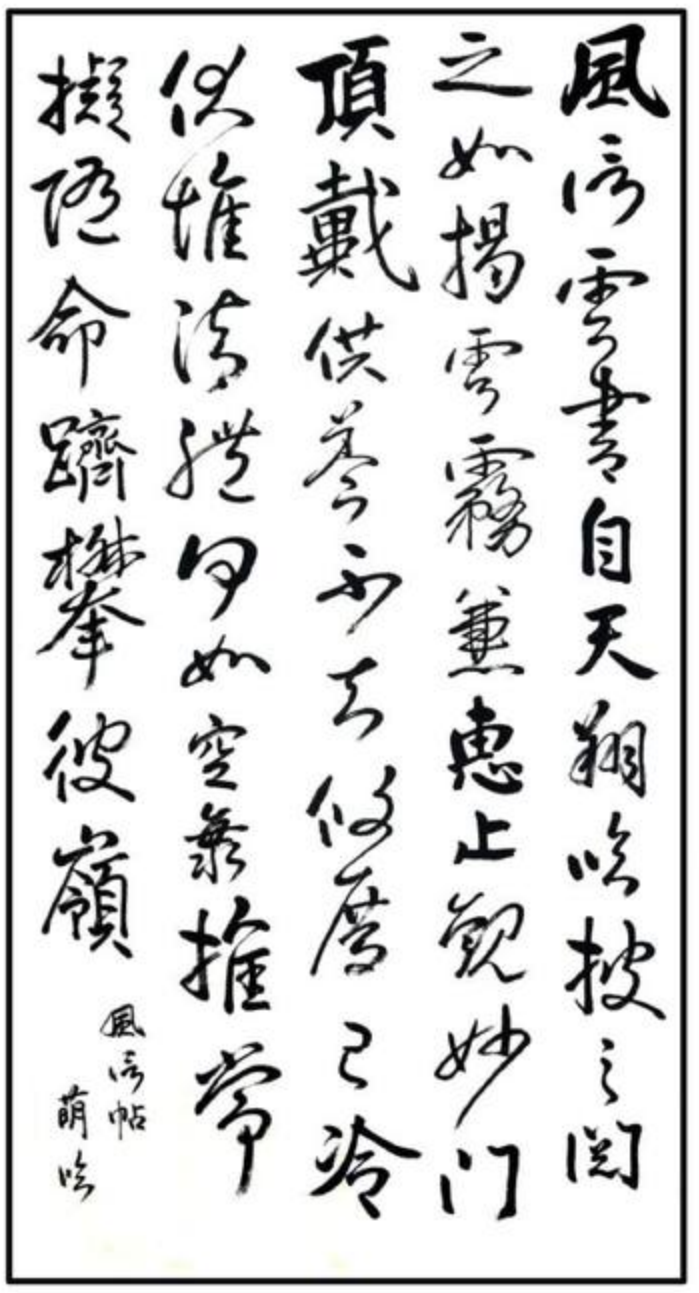
三一、山口萌

臨書　行書　空海『風信帖』　全紙

「風信雲書自天翔臨　披之閲之如掲雲霧兼　恵止觀妙門頂戴供養

不知攸暦已冷伏」

大学に入って初めて出品者として参加できる書展のために何を書こうかと考えたとき、高校の時に憧れて結局書けずじまいになっていた風信帖が思い浮かびました。おもしろい字がたくさんあるこの古典を自分らしい作品にまとめるのは思った以上に大変で筆が持てなくなるときもありましたが、やっぱり楽しかったです。品評会の前に徹夜で書いたのはいい思い出です笑。ご批評よろしくお願いします



三二、横山成基
創作　調和体　「僕のキモチ」　全紙
「君に贈るよ 僕からの このキモチ ありのまま 伝えたい白く光る季節を添えて」
WaTの『僕のキモチ』です。「ありのまま伝えたい。」その一心でこの作品を書きました。



三三、吉田幸広
臨書　行書　董基昌『菩薩蔵経後序』　半切
「常楽之道。猶且事光圖史。振熏風於八挺…」
菩薩蔵経後序は董基昌の晩年の作品で、王羲之『集字聖行序』の書風で書かれています。『集字聖行序』は以前臨書したことがあり、その時の経験が生かせたかと思います。
ご批評よろしくお願い申し上げます。



三四、米田直紀
創作　仮名　「関戸本古今集より」　半切
「このまより　もりたる月の　影みれば　心づくしの　秋はきにけり」
初めて創作に取り組みました。色々な人達からアドバイスをもらいながら、ゼロから作り上げていく過程が、もの凄く楽しかったです。
筆遣い、墨の潤滑、仮名独特の空間美を楽しんで頂ければ幸いです。



三五、脇本啓太

臨書　行書　王羲之『蘭亭序』　半切

「是日也天朗氣清惠風和暢仰觀宇宙之大」

王羲之の 蘭亭序を臨書しました。線の鋭さや強さ、筆の流れに意識を向けながら取り組みました。一行あたりの文字数を増やしたので、一字ずつが大きくなりすぎないように気をつけつつ書きました。ご批評、よろしくお願いします。



【合作作品】

【丸投げ】仕事を請け負った者が、その全部を他者にさらに請け負わせること。　（広辞苑より）

どーも、合作係です。個人的な今回の合作の裏テーマは「丸投げ」。僕の仕事は、かるたを配るだけの簡単なお仕事。　しかし、さすが京大書道部。　出るわ出るわ、素晴らしいアイデアの数々！　さぁ！個性を爆発させた部員達のユーモアを、とくとご覧あれ！！

【賛助作品】

講師　寺本蒼玄先生

荀子『知道行』

道を知って実行する。気持ちの思むくまま、思い切って筆を走らせました。句の意味の如く、迷いはない作になったと思います。



□　卓上小作品　□

＊大田奈央
創作　調和体　「穂村弘『ラインマーカーズ』より」　色紙
「完璧な心の平和、ドライアイス指でさわっても平気だったよ」
　私の大好きな歌人、穂村弘さんの短歌を書いてみました。それぞれは日常的なことでもそれらを組み合わせるとどこかどきっとする、絶妙なバランスがたまりません。が、自分がそれを書で表現するとなると…大変です。

＊小川薫
創作　調和体　「〇に感じる」　半紙横パネル
　私は丸を見ると何かほっとする気持ちになります。そんな気持ちを、少し肩の力を抜いた柔らかい印象の作品をめざし、表現してみました。また今回は、パネルから手作りです。手作りならではの味も出せていれば幸いです。

＊木谷亮太
創作　金文　「過」　色紙
　過という字の金文体は見ればどこか「径（みち)」という字に似ている気がします。不思議なものですね。

＊北山聡佳
創作　漢字仮名交じりの書他　「運命の出会い」　Ｆ６サイズ
　華やかな世界への憧れ―――美大を目指す私は、様々な技法や色を使う楽しさを得る一方、白いものを描く事の難しさを知った。白は光の色を素直に映しているからである。そんな時、白と黒を巧みに扱う芸術に出会った。

＊窪田頌
臨刻　篆刻　「鄧石如印二顆」　色紙
「江流有声断岸千尺/淫読古文甘聞異言」
　何気なく刻してあると見せるも、その実、石如の印は高度に構成が組まれていることを、ますます実感させられた次第。流石という他ないです。印が空間の芸術に他ならず、当に書道たるべしということを思い知らされました。

＊佐藤綾美
創作　行書　「遂其終」　色紙
「遂其終」
　後期から入部しました。初めて出品させていただくので、とてもはらはらしています。この言葉は「最後までやり遂げる」という意味で、まさに自分に必要なことだと思い、書こうと決めました。

＊頓部李歩子
創作　調和体　「世界はひとつ」　色紙
　高校の先生が「外国に行っても“ありがとう”さえ現地の言葉で伝えられれば、ほかの単語はわからなくてもやっていける」とおっしゃっていたのを、今でも覚えています。“ありがとう”は世界をつなげる魔法のことばなのかもしれません。

＊頓部李歩子
創作　調和体　「今 心から ありがとう」　写真サイズ
　家族へ。支えてくださった皆さんへ。この 4 年間様々なことを教わりました。今はこの言葉に尽きます。

＊永溝聡士
臨刻　篆刻　徐三庚「延陵季子之後」　色紙
「延陵季子之後」
　今、自分の中で篆刻がブームです。楽しく彫れたので満足しています。

＊舛井千草
創作　調和体　「拠」　写真サイズ
　いつも一緒にいてくれた友人に、お世話になった恩師に、見守り続けてくれた親に、そして私の一番の拠となってくれた最愛の人に向けて…。



This book was
made by the LeME